



ほっとするね
緑の府中

第 58 号

指導室 だより

編集・発行 府中市教育委員会教育部指導室
〒183-8703 府中市宮西町2-24
電話 042-335-4063

「自分の命は自分で守る」ための力を身に付けよう

保護者も参加しセーフティ教室が行われる

府中市立若松小学校

若松小学校（鈴木達夫校長）

では、5月2日（金）に府中警察署職員の指導の下、セーフティ教室を実施した。

当日は、学校公開日とも重なっており、低学年の部と高学年の部の2回実施したが、いずれも保護者が大勢参加して行われた。

このセーフティ教室は、小、中、高、特別支援学校において児童・生徒の健全育成の活性化及び充実を図るとともに、学校・家庭・地域社会の連携による非行・犯罪被害防止教育の推進に資するというねらいのもとに都内の公立学校の全てで行われている活動である。

まず、府中警察署職員から「自分の命は、自分で守る」ための力を身に付けましょうといふ指導があった。大事なことは、犯罪に遭わないように自分から気を付けることである。

その一つには、危険な場所は近づかないことである。犯罪は車が寄ってきてすぐに乗



府中警察署の職員の話を真剣に聞く

見えにくいから危険)

○木が多く見えにくい場所と見通しのよい場所（木が多く繁つていると犯罪が発生していると犯罪が発生していくても

せられてしまうから危険)
○高い塀が続く道と見通しのよい道（高い塀が続くので犯罪が発生しても見えにくいから危険）
3公園の事例

○木が多く見えにくい場所と見通しのよい場所（木が多く繁つていると犯罪が発生していくものもあるので、正しい知識を身に付けることが大切であるとの指導があった。

が発生しやすい場所は、誰からも見えにくい場所であったり、簡単に入りやすい場所が挙げられる。
そこで二者択一クイズで自分で判断する訓練を行う。

1道路上での事例

が発生しやすい場所は、誰からも見えにくい場所であったり、簡単に入りやすい場所が挙げられる。
そこで二者択一クイズで自分で判断する訓練を行う。

1公園での事例



「助けて！」と大きな声で叫ぶ訓練

「いかのおすし」を徹底しましょう！

- ◇ いかない
- ◇ のらない
- ◇ おおごえを出す
- ◇ すぐににげる
- ◇ しらせる



基礎学力の向上を図る

～学習指導要領の告示を受けて～

府中市立府中第五中学校

校長 中村一哉

1 「基礎学力」を考える

これまで基礎学力については、多様な議論がなされてきたが、この問題は、どのような視点に立って考えるかで様々な様相を呈している。

例えば、「基礎学力とは何か」を教科の視点から問うならば、教科の系統性を踏まえて、より複雑で高度になっていく学習課題を解決していくために必要不可欠とされる知識や技能との解釈が一般的である。

しかし、その場合に教科の特性を考慮する必要があり、単元教科と題材教科とでは求められる基礎・基本のとらえ方は若干異なってくる。

また、学習指導要領の内容すべてが基礎・基本との考え方もあるが、それも、学習指導要領は最低基準との位置付けがなされ以降は、準拠性が強調されたそれ以前と比べて指導内容の

取り扱いの幅が広くなり、多様化してきている。

学力については、その他にも様々な意見があるが、新しい学習指導要領が告示されたいま、教育課程の改善の趣旨から基礎学力の向上についてとらえ直してみたい。

2 いま、育てる学力とは

今回の教育課程の改訂では、これまで重視されてきた「生きる力」の育成の方向性が継続されおり、学力を教科横断的に育てる総合的な力としてとらえられる見方がより強調されている。

この改訂は、先の教育基本法、学校教育法の改正を反映したものであるが、学校教育法の第21条に示された義務教育が目標とする10項目の育成内容を見れば、

学力と意欲の関係が取り上げられる背景には、様々な場面で引き合いに出されるOECDの国際調査結果がある。日本の児童・生徒は、教科を学習する目

や不要があるわけではない。諸調査の結果等を踏まえて教科の時数に変化はあるものの、学習によって身に付ける基礎的な学力を、言語活動や思考力、表現力など、課題解決に向けた能力的要素ととらえる側面が一層強くなっているように感じられる。

さらに学校教育法第30条では、「基礎的・基本的な知識・技能」「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」「学習意欲」を学力の要素として規定している。これは教育課程審議会で協議された「習得→活用→探究」の学習過程に対応したものと考えられるが、とりわけ「学習意欲」を学力の一要素として法に位置付けた意義は大きいと考える。

学力と意欲の関係が取り上げられる背景には、様々な場面で引き合いに出されるOECDの国際調査結果がある。日本の児童・生徒は、教科を学習する目

的意識や有用感が他国と比較して低く、それが、課題解決の場面で必要とされる読解力や応用力の達成状況と関連していると指摘がなされている。

これは、学習に対する児童・生徒の主体性と学力の定着・向うとの関係についての課題を提示するものであり、言い換えるば、基礎学力の向上を図るために、児童・生徒の学習構造を改善し、構築し直すことが重要である。「学習に対する意欲」は、その際の要となるということである。

であり、「学習に対する意欲」は、その際の要となるということである。

児童・生徒の視点から改善が実感されること、驚きや発見があること、学ぶ環境が整っていることなどの工夫・改善が指導者には求められるが、そうした手立ての一つにシラバスがある。

シラバスは学習者の視点から作成された学習支援計画であり、その作成や活用については、平成18・19年度の多摩地区教育推進委員会の報告書にまとめられているが、学校における普及と活用はこれからである。

授業改善と学習構造の改善は表裏の関係にある。新しい学習指導要領の告示を受けて、その趣旨を踏まえるとともに、指導と学習の両面の充実に力を注ぎながら、確実な学力の向上を図る取組を進めていく必要がある。

といった学習スタイルを確立する必要がある。それによって、知的な興味や好奇心が高まり、学ぶこと自体に対するスリルや喜びを実感することによって、児童・生徒の学習とのかかわりが変化し、主体的な学びの構造が実現すると考える。

◆「巡回指導実施要領」
府中市で「巡回指導」が始まつて3年目を迎えた。子どもたちに学習指導の面から支援をしている。

指導時間は、週1回、1時間であります。巡回指導は、そのような子どもたちに学習指導の面から支援をしている。

◆「巡回指導実施要領」
府中市で「巡回指導」が始まつて3年目を迎えた。

「分かった！一人でやってみるからみてね」
こんなときの子どもの表情は穏やかで、目が笑っている。
通常の学級に在籍する子どもの中には、何かにつけて日々「困り感」を抱きつつ学校生活を送っている子どもたちがいる。

巡回指導は、そのような子どもたちに学習指導の面から支援をしている。

特別支援相談室 (5)

巡回指導

19年度の活動を振り返って

～子どもの困り感に寄り添って～

巡回指導員 久富美智子



「府中市巡回指導実施要領」
には、目的、対象、支援の内容
などが明記されている。

「巡回指導」は、通常の学級
に在籍する児童・生徒に対し、

一人一人の教育ニーズに応じた
特別な教育的支援を行うことに
より、個に応じた指導を充実す
ることを目的としている。

指導の対象者は、ADHD・
LD・高機能自閉症等の発達障
害のある、又はあると思われる
児童・生徒などっている。また、
学校や保護者から支援を求
められている子どもに関わること
もある。

一方、気になる姿にも出会う。
発達障害のある子どもだけでな
く、学校や保護者から支援を求
められている子どもに関わること
もある。

◆教室で見る子どもの姿
学校を訪ねてみると、様々な
子どもの姿に接する。大部分の
子どもたちは、明るく、生き生き
として学校生活を楽しんでい
る。授業には、主体的に取り組
み、休み時間には、友達と共に
遊びに興じている。

「今日の勉強、おもしろかつ
たよ」
「分かった！一人でやってみ
るからみてね」
こんなときの子どもの表情は
穏やかで、目が笑っている。
通常の学級に在籍する子ども
の中には、何かにつけて日々
「困り感」を抱きつつ学校生活
を送っている子どもたちがいる。

巡回指導は、そのような子ども
たちに学習指導の面から支援
をしている。

その一つは、教室での授
業において、対象の子ども
に寄り添って学習支援をす
る。

もう一つは、別室での個
別指導による方法である。
年間を通じて一つの方法で
支援する子どもと、学習内
容によって変える子どもがいる。
いずれにしても、担任、保護者
と相談の上で決めている。

と短時間ではあるが、「継
続は力なり」で一年間を振
り返ってみると、個人差は
あるが、授業に前向きに参
加できるようになり、学習
内容を理解して自信をもつ
た子の姿が見られた。
子どもへの指導の方法は
二通りある。
その一つは、教室での授
業において、対象の子ども
に寄り添って学習支援をす
る。

もう一つは、別室での個
別指導による方法である。
年間を通じて一つの方法で
支援する子どもと、学習内
容によって変える子どもがいる。
いずれにしても、担任、保護者
と相談の上で決めている。

・興味のある学習には取り組む
が、そうでない課題には、机に
伏したり、くずれた姿勢で所在
なげにしている。
・これまでの学習が習得されて
いない、授業についていけず
に、手遊び、落書きをして過ご
す。
私たち巡回指導員は、担任へ
の支援として、タ
イミングをみて、手を差し伸べるよ
うに努めている。

子どもにとつて苦
手なことが必ずし
もしたくないこと
だとは限らない。
「できた」と思え
る体験を積み上げ
させたい。

◆今年度の巡回指導
巡回指導が3年目を迎える、そ
の趣旨が理解されてきている。
指導員の数も今年度は1名増え
て7名に、各校での滞在時間も
長くなつた。子どもたちのより
よい成長のために努力したい。

巡回指導対象児童・生徒数

	学年	18年度	19年度	20年度
小学校	1年	10	3	5
	2年	4	14	15
	3年	8	7	12
	4年	5	10	9
	5年	6	8	10
	6年	2	8	5
	合計	35	50	56
中学校	1年	0	1	0
	2年	2	1	1
	3年	0	1	0
	合計	2	3	1

昨年度は、四年生が総合的な活動を重点に本校の研究を進めている。そこで、地域を十分に生かしながら、体験を取り入れ表現する活動を重点に本校の研究を進める。

本校では、昨年度から「自ら学び考える子どもの育成」を研究テーマに取り組んでいる。本校のまわりには、多摩川や郷土の森博物館、総合卸売センター、ビル工場などがあり、活用する地域教材には事欠かない環境である。

さらに、本校は府中「水辺の楽校」の拠点にもなっており、折にふれ、水辺の楽校の指導者を招いては、植物や動物の生態を教えていただいている。

本校では、集会活動を毎週行っているが、特徴的なものとして「ペア学級班」がある。これは一年・六年、二年・五年、三年・

四年の学年でペアを組み、異年齢集団とのかかわりを大切にしている。年度当初に、地域・保護者から教育活動におけるボランティアを募集している。

そこで、地域を十分に生かしながら、体験を取り入れ表現する活動を重点に本校の研究を進めている。

3 特別活動の充実

4 地域ボランティアとの連携

1 地域を生かし、体験と表現を大切にした活動

本校では、昨年度から「自ら学び考える子どもの育成」を研究テーマに取り組んでいる。本校のまわりには、多摩川や郷土の森博物館、総合卸売センター、ビル工場などがあり、活用する地域教材には事欠かない環境である。

そこで、地域を十分に生かしながら、体験を取り入れ表現する活動を重点に本校の研究を進めている。

本校では、集会活動を毎週行っているが、特徴的なものとして「ペア学級班」がある。これは

さるに、本校は府中「水辺の楽校」の拠点にもなっており、折にふれ、水辺の楽校の指導者を招いては、植物や動物の生態を教えていただいている。

そこで、地域を十分に生かしながら、体験を取り入れ表現する活動を重点に本校の研究を進めている。

わが校の特色ある教育 NO.23

地域の豊かな教育資源を生かした教育活動

府中市立矢崎小学校
主幹教諭 猿渡 厚史



多摩川での活動

2 夏季チャレンジ講座

昨年度から夏季休業中に教職員、地域の方を講師に児童向けの活動講座を開いている。

児童の教育活動の充実を図るとともに、学年を超えた人間関係を豊かにしようとすることがねらいである。

教職員が一人一講座を受け持ち、教職員の得意なことを指導しながら、参加児童と一緒に過ごしている。

工芸や小物作り、科学実験やスポーツ活動など、講座もバラエティに富み、児童の参加希望数も大変多い。

また、地域からも講師を募り、「巣箱作り」「ビーズの飾り作り」などの講座もを行い、充実した活動内容となっている。

さるに地域の方から、いろいろなプロの技を児童に披露していただき、児童のチャレンジ精神を高めていきたい。

四年の学年でペアを組み、異年齢集団とのかかわりを大切にしたグループ活動である。遊びや歌の練習を一年間一緒に行い、交流を深めている。

また、特別活動の全校行事を年に二回行っている。「一つは「矢崎まつり」という子どもまつりである。学年・学級で話し合いを十分に行い、当日に向け

て計画を進める。人間関係の希薄が言われて久しい中、上学校が主に店を出し、下学校がお客様になり活動を通して学年を超えた交流が深められている。また、

近隣の高齢者からの出店や幼稚園児の参加もあり、学校外の交流も行われている。

もう一つは全校遠足である。ふだんから交流のあるペア学級班で郷土の森博物館へ遠足に行き、班ごとでオリエンテーリングを行う。ポイントごとに、教員から出された問題に班で知恵を絞った

このように地域・保護者の方の協力を得ながら、矢崎小学校は、豊かな日々の教育活動を開いている。

読み聞かせ活動では、毎週朝読書の時間に保護者の方が来て読み聞かせてくださり、児童の読書に対する意欲も高まってきている。

また、月に一度パソコン教室を行い、パソコンに堪能な方が児童にパソコンの使い方や、リテラシーを指導している。

また、年に一度バソコン教室が主に店を出し、下学校がお客様になり活動を通して学年を超えた交流が深められている。また、

近隣の高齢者からの出店や幼稚園児の参加もあり、学校外の交流も行われている。

もう一つは全校遠足である。ふだんから交流のあるペア学級班で郷土の森博物館へ遠足に行き、班ごとでオリエンテーリングを行う。ポイントごとに、教員から出された問題に班で知恵を絞った

このように地域・保護者の方の協力を得ながら、矢崎小学校は、豊かな日々の教育活動を開いている。



保護者による読み聞かせ活動

平成20年度 府中市教育委員会主催夏季研修会一覧

No.	研修名	対象	定員	期日	会場
I 五市合同専門研修					
1	国語「新学習指導要領の趣旨を生かした授業づくり」	小	80	7/29・30	調布市教育会館研修室
2	国語「言語活動の充実を図った授業づくり」	中	40	8/1	府中市立教育センター
3	社会「問題解決的な学習の充実」	小	40	7/30・8/1	狛江市立小学校（予定）
4	社会「新しい社会科の方向性」	中	40	8/6	武蔵野市役所会議室
5	算数「算数の時間を楽しみにする子どもを育てる授業づくり」	小	50	7/28・29	狛江市立小学校（予定）
6	数学「学習指導要領改訂のポイントと指導上の留意点」	中	40	7/29	武蔵野市役所会議室
7	理科「新学習指導要領が目指す理科指導のポイント」	小	60	7/24・25	武蔵野市役所会議室
8	理科「生徒の意欲を高める教材と指導の在り方」	中	40	7/31	府中市立教育センター
9	生活「今後の生活科の方向性と授業実践の充実」	小	40	7/31	府中市立教育センター
10	図工・美術「すぐに役に立つ実技研修と美術館での鑑賞ポイント」	小・中	40	7/30	府中市立学校・府中市美術館
11	音楽「音楽を楽しむ心情を育てる授業づくり」	小・中	40	7/29	武蔵野市立小学校（予定）
12	体育・保健体育「運動の特性を踏まえた指導の充実」	小・中	40	7/31	三鷹市教育センター・第五中
13	体育・保健体育「心と体の健康づくりを推進する指導の工夫」	小・中	40	8/1	三鷹市教育センター・第五中
14	家庭「発達段階に応じた指導の充実」	小・中	30	7/30	三鷹市教育センター
15	技術「生徒が意欲的に取り組み、ものづくりを支える能力を育成する指導の工夫」	中	40	8/1	調布市立第五中学校
16	英語「コミュニケーション能力の基礎を養う指導の工夫」	中	40	8/5	調布市教育会館研修室
17	道徳「道徳の時間を楽しみにする子供を育てる」	小	80	8/6・7	調布市教育会館研修室
18	道徳「道徳の時間を楽しみにする子供を育てる」	中	40	7/31	調布市教育会館研修室
19	総合「総合的な学習の時間の指導の充実」	小・中	30	7/28	三鷹市教育センター
20	特別支援教育「児童・生徒のニーズに応じた支援を高めるための基礎・基本」	小 中	50 50	A 7/23 B 8/5	狛江市立小学校（予定） 狛江市立小学校（予定）
21	英語活動「英語活動における授業改善」	小	40	8/1	府中市立教育センター
II 不登校対応研修					
25	講義「不登校問題概論と不登校児童・生徒への対応について」 事例研究「不登校児童・生徒の事例研究」	小・中	60	7/30	府中市立教育センター
III 学校教育相談研修					
26	「学校教育相談概論」「ソーシャルスキル教育」「発達障害の理解と対応」「メンタルヘルスを活用した児童・生徒のケア」	小・中	60	7/28・29	府中市立教育センター
IV IT研修					
30	Word & Excel（中級）	小・中	40	7/22・23	府中第一中学校
31	一太郎&Excel（中級）	小・中	40	7/22・23	府中第九中学校
32	Power Point（中級）	小・中	40	7/24	府中第一中学校
33	ホームページ・ビルダー（初級・中級）	小・中	40	7/25	府中第九中学校
34	学びの扉（初級・中級）	小・中	40	7/28（午前）	府中第一中学校
35	学びの扉（初級・中級）	小・中	40	7/28（午後）	府中第一中学校
V 選択課題研修					
40	和太鼓実技研修	小・中	20	7/24・25	府中第三小学校
41	書写実技研修	小・中	20	7/22・23	府中市立教育センター
42	英語活動研修	小・中	40	8/4（午前）	府中市立教育センター
43	英語活動研修	小・中	40	8/4（午後）	府中市立教育センター
44	英語活動研修	小・中	40	8/5（午前）	府中市立教育センター
45	英語活動研修	小・中	40	8/5（午後）	府中市立教育センター
46	福祉施設体験研修	小・中	30	8/6・7・8	特別養護老人ホームあさひ苑 特別養護老人ホームよつや苑 ふれあい会館・市内福祉会館
47	企業体験研修	小・中	3	7/30・31 8/1	イトーヨーカ堂府中店
50	パイプオルガン体験研修	小・中	200	8/22	府中の森芸術劇場ウィーンホール

7月研修会・委員会等予定	曜	研修会・委員会等	会場	研修内容等
	1 火	初任者等研修会	日新小学校	授業参観、協議
	1 火	小学校英語活動推進委員会	教育センター	全体会(年間計画)
	3 木	算数・数学指導員研修会	府中第三小・府中第一中	授業参観、協議
	4 金	ICT活用推進委員会	教育センター	全体会(年間計画)
	7 月	生活指導主任会	教育センター	全体会(連絡・検討事項)小・中分科会
	7 月	特別支援学級代表者会	教育センター	代表者会、分科会
	8 火	体力向上委員会	教育センター	指導案検討等
	10 木	教務主任会	教育センター	全体会(連絡・検討事項)小・中分科会
	11 金	人権教育推進委員会	教育センター	分科会(指導案検討)
	11 金	学校図書館推進委員会	教育センター	分科会(年間計画)
	14 月	事務職員研修会	教育センター	未定
	15 火	初任者等研修会	教育センター	宿泊研修課題設定に関する協議

21世紀は、「知識基盤社会」と言われている。新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化を始め社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す時代であるとされる。また、それには国境はなく、グローバル化が一層進むと指摘されている。

このような社会においては、基礎・基本の習得やそれらを活用して課題を見い出し、解決するための思考力・判断力・表現力等が必要である。「知識基盤社会」の時代を担う子どもたちに求められるのがまさに「生きる力」である。

新学習指導要領には、現行学習指導要領の理念である「生きる力」をはぐくむという理念が引き継がれる。

経済協力開発機構(OECD)

は、1997年から2003年にかけて、「知識基盤社会」の時代を担う子どもたちに必要な



「知識基盤社会」に求められる能力

(指導主事 長田 和義)

時代においては、知識・技能は常に変化しており、一度習得すれば終わりというものではない。常に更新していく姿勢が必要がある。変化への適応、生涯にわたって学ぶことが求められる重要な基盤である。

「知識基盤社会」の実現に向けて述べてある。「知識基盤社会」の時代においては、知識・技能は常に変化しており、一度習得すれば終わりというものではない。常に更新していく姿勢が必要がある。変化への適応、

「知識基盤社会」の実現に向けて述べてある。「知識基盤社会」の時代においては、知識・技能は常に変化しており、一度習得すれば終わりというものではない。常に更新していく姿勢が必要がある。変化への適応、

「知識基盤社会」の実現に向けて述べてある。「知識基盤社会」の時代においては、知識・技能は常に変化しており、一度習得すれば終わりというものではない。常に更新していく姿勢が必要がある。変化への適応、

「知識基盤社会」の実現に向けて述べてある。「知識基盤社会」の時代においては、知識・技能は常に変化しており、一度習得すれば終わりというものではない。常に更新していく姿勢が必要がある。変化への適応、

「知識基盤社会」の実現に向けて述べてある。「知識基盤社会」の時代においては、知識・技能は常に変化しており、一度習得すれば終わりというものではない。常に更新していく姿勢が必要がある。変化への適応、

◆声を掛けられたことが時には、励みや自信に、時には、人の優しさに触れ、心の豊かさにつながっている◆今年度も7月から中学一年生の職場体験事業が始まる。今年度から3日間から5日間と長くなるが、各職場で様々な体験を通して自らの成長の糧となるものを何か学んでくることを期待したい。(横山 洋)

あとがき